



長期投資仲間通信「インベストライフ」

I-OWA マンスリー・セミナーより

ホット・アジア、クール・ジャパン

講演: 勝池 和夫

レポーター: 川元 由喜子

中国は、日本の25～26倍の国土を持つ大きな国です。よくシャドウ・バンキングやゴースト・タウンが話題になります。確かにそれも中国の一部ですが、また、それは一部でしかありません。日本ならば東京と九州の経済成長率はそれほど大きくは違いませんが、中国では違います。上海の今年の成長率は7%ですが、成都や重慶は13%です。反日感情の渦巻く部分もあると思えば、親日感情に溢れている部分も、その何倍もあるわけです。中国を一つに結論付けるのは無理なのです。



中国経済について話を聞けば、そこに投資している華僑たちが一番信頼できるでしょう。何人かに聞いてみると、悲観的な人はほとんどいません。なかでも今、最も有望だと思われる都市は、四川省の成都です。成都だけで1400万人の人口があり、四川省と隣の重慶を合わせると1億1千万人、そしてそれより西に住んでいる人が3億人近くいると言います。今後5年間、世界中にできる色々な商業施設の面積の1割は成都と言われるぐらいで、ここが今後の経済の成長を引っ張っていくと思います。

昨年時点の中国の都市化率は52%(戸籍ベースでは36～37%)、これはイギリスで言えば1850年代、アメリカなら1920年です。その点を考えると、これから内需中心に経済が発展する段階に入ったと言えるのです。都市部のサービス業で経済を牽引させようということで、最初に動いたのが成都や重慶です。Fortune 500社のうちの233社は既に成都に進出済みですが、みな揚子江に面した二～三級の都市にもかなり注力しています。中国の都市化は世界的に大きなイベントにな



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ってくるでしょう。

もう一点は、珠江デルタです。「香港深圳高速鉄道」、「香港・珠海・マカオ大橋」など、多くのインフラ計画があり、5～10年で様変わりするだろうと言われています。東洋の真珠と呼ばれた香港は、上海やバンコクやホーチミンに追い抜かれて、その輝きが失せるだろうと言われてきましたが、今後は多くの人が入ってきて、真珠の粒が大きくなるのではないのでしょうか。

中国を追いかけるインドでも、例えば2016年には、インパールからミャンマーを通してバンコクまで3200 kmの「メコン・ガンジス三国間高速道路」が完成します。また、今までインフラ整備が遅れていたコルコタでは、すでに地下鉄建設が始まっており、周りの州をも巻き込んで、経済成長に参画してきます。日本の企業進出も、前にも増して増えていくでしょう。

では日本はこれから、どうやって稼いでいくのか。そのキーワードが「クール・ジャパン」でしょう。これをアニメなどコンテンツの輸出だと勘違いする人がいますが、そういうことではない、もっと広い意味で、世界が共感する「日本」、世界が欲しがる「日本」ということなのです。日本ブームを作り、輸出し、そして日本に来てもらうのです。その際の有力なコンテンツは、「食」。食べ物は歴史を動かします。日本の「お・い・し・い」は大いに期待できます。

講演では、様々なエピソードを交えたり、アジアの地理を食べ物になぞらえたりと、ウイットに富んだお話が満載でした。「クール・ジャパン」のアイデアに関して、熱く語っていただきました。



I-OWA マンスリー・セミナーより

グローバル化時代の中国と日本

対談: 勝池 和夫、岡本 和久

レポーター: 赤堀 薫里

岡本 | 今日は、フィールド・リサーチに基づいた興味深いお話をありがとうございました。クール・ジャパンという新しい側面が興味深かったですね。思い出したのですが、江戸時代、1700年位から成長が止まり、その後、緊縮財政と積極財政が入れ替わり立ち替わりとられたのですが、最後は黒船が来た。いまで言えばTPPみたいなものですよ。そして開国となったのですが、その時にジャポニズムというものが欧米に良い意味での驚きを与えた。あれと同じような時代背景が今ある気がします。お話を聞いて思ったのは、クール・ジャパンとは、アニメやお寿司とかいう個別の事象ではなく、日本人のオペレーティング・システム、行動様式そのものというような気がしますね。その背景にあるものは、優しさや、和を重んじる心、自然への崇拝のようなものがあるのでしょうか。金融や投資の世界でも、和風の何か新しいパラダイムとして出てきてもいいのではないかなと感じました。

参加者 | 一つ伺いたい質問があります。民族の問題も含めて、政府にしても自分の県や州が儲かっていれば、他の所と一緒にすることで儲けを薄くしたくないという気持ちは当然あるだろうと思います。国としての政治的な発想もあるでしょう。成長により豊かになるほどその富を独占しようとして、排他的になり、分裂というリスクが高まると思うのです。それが、今大きな問題となっているのだと思いますが、その辺のご意見を伺いたいです。



勝池 | 中国で話をしてみると、証券会社も事業会社もそれぞれの出身地のことのみ考えている



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ばかりで、全体的な視点から話しをされる方はそれほどいません。人的な行き来もあまりないようです。上海の人と北京の人は仲良くありません。やはり国土も大きいのでバラバラなわけです。なおかつ、自分の家族や自分自身が大切で、あまり人のことを考えないわけです。三中全会で一人っ子政策のことが出ていましたよね。親のどちらかが一人っ子の場合は2人目の出産を認可するわけですが、今でも本来は両方が一人っ子のはずですから、100万、200万と毎年子供が増えてくるのかもしれませんが。労働改造所を撤廃するまでしていました。350か所19万人位の方が、今でも収容されていますし、日本人も捕まっている方がいますよね。習近平さんのお父さんご自身も経験されたということもあります。分け前に預かろうという人が増えるほど分裂の危機がないとは言えませんね。

岡本 | その意味ではこれは中国だけの問題ではないですね。

勝池 | 最近、佐藤優さん、寺島実朗さん、池上彰さんなどが心配されているのはアメリカのことですね。37%は少数民族です。2050年位になる白人が減ってきて、主な言語が英語ではなく、ヒスパニックやアジアの言語となる可能性があり、アメリカ自体が分列する危機が起きているという話を聞き私は驚きました。中国は入口でいろいろなことが起きていますが、前に比べて農村部の農民の納税がなくなったり、労働改造所の廃止や、一人っ子政策の緩和、都市化の戸籍の問題等もありますしね。分裂の危機もあるかもしれませんが、ある意味まともになりつつあると思います。とはいえ、どこかがモデルにならないといけませんよね。広東省は改革解放のモデルです。でも、ずっとその前のモデルが西安、昔の長安です。世界で最も国際化された都市であり、世界で最も人口の多い都市でした。振り返ってみると、昔、統一され、調和を実現していたわけです。「中国の50年前を知りたかったら上海に行きなさい。500年前を知りたかったら北京、5000年前を知りたかったら西安に行きなさい」と言われています。その意味では中国にはグローバル化の過去のモデルがある。しかし、アメリカにはそんなに歴史はないわけですよね。しかし、そういうものが少しずつできてきているのではないかと感じます。私は中国をお茶で例えるのですが、中国ではお茶はすぐ飲みません。出すぎたり、汚かったり、カビが生えていたりするので、それらを流す過程があるわけです。そういう過程が、現在、中国の経済や株式市場にあるのかもしれない。そう考えると中国で本当に美味しいお茶がでてくるのはこれからかもしれませんね。分裂の危険性もあるわけですが、ある意味では、まとまりの方向に行くのかもしれない。

岡本 | 7~8%の成長率ということも大変なことですよ。50年代60年代の日本に例えられていますが、日本の成長モデルと中国の成長モデルとは、現実的には相当違うと思います。日本は、まとまった小さな国で基本的に単一民族国家ですし、団結力があります。長い中国の歴史の中で自分自身を守るために個人主義が浸透している人達に対しては、習近平がいろいろ出している政策は、大きな方向性としては正しいのではないのでしょうか。ただ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

それに対する抵抗勢力は日本の比ではないでしょうけどね。相当長期のプロセスになるでしょうね。

勝池 | それはそう思います。おっしゃるように相当の長期プロセスでしょう。

岡本 | 日本に対する感情はどうなんでしょう。民間レベルではなく、共産党として、長期的な対日関係の展望を考えていますか？

勝池 | 国全体として、あちこちに少数民族もいますし、不満が充満している。ですから、「対外的に敵を作っていこう」という気持ちも強いのではないのでしょうか。また、安倍さんも日本の教科書に政府の見解を出すと言っていました。タカ派的な動きになるので、中国もそれに対抗せざるを得ないというかたちになると思います。

参加者 | 中国も内側の問題がいろいろ出てきていますから、そろそろ政府が反日をおおっている場合ではないでしょうね。中国は口では色々過激なことを言っていますが、我々が考えている以上に大人なので、安倍さんが詰め将棋のように相手の嫌がる手をきちんと打っていけば、譲歩するところは譲歩していくのではないかと思っています。

勝池 | それともう一つ、尖閣諸島問題で青島や上海で反日運動が起きましたよね。でもそれ以上の親日的なイベントがあちこちで起きています。今度のユニクロだって9月30日に銀座店の3割増しの最大の店舗が上海にできましたね。その近くに香港の大きなサンフンカイという不動産開発会社が5000億円の投資をしました。彼らは今まで香港以外に5000億円の投資をしたことはありません。もし彼らが本当に深刻に考えていれば、そのような行動にはでないでしょう。つまり、反日もあれば親日も多いわけです。中国内にはゴーストタウンもあれば銀座もあるわけです。中国全体の経済成長にかけているわけではない。単純な区分をしにくい国です。

岡本 | 日本はどちらかというひとつのラベルを貼って理解しようとする傾向がありますからね(笑)。

勝池 | どこに問題があるのかというと、アメリカだけがいいというわけでもないし、インドもあるし、日本もある。ただ、そうはいつでも日本はそれほど大きな成長があるわけではないですね。高齢化の問題もありますし、世界の1/3の震災は日本の周りで起きていますからね。

参加者 | 日本がこれから世界の為に寄与することを考えると、世界の一部の人がちょっと動いて、「日本って綺麗でいい国だね」と思えば、観光業が上手くいくでしょう。ただ観光業を考え



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ると、日本のインフラが問題になります。すごく費用はかかりますが、電信柱を埋め込むといいですね。西洋人の旅行の仕方を見てみるとよくわかります。年配の方が多いのですが、決して有名な所でいいものを食べるわけではない。ゆっくり手をつないで歩いて、ほっとして休む。伝統的なものを、すごく尊敬してくれますから、食べ物やお土産だけではなく、神社仏閣を見直して、文化伝統を前に出して欲しいですね。日本の観光業は上手くいけば成功すると思います。

勝池 | 日本は今までモノを外に出して稼いできたでしょう？これからは人を外から内に持って来るわけですよ。「COOL JAPAN」は、「カッコいい日本」ですが、それを「来～るジャパン」にすればいいわけですよ。経済がグローバル化してくると、企業は人件費が安くて、税金が安く、環境規制が緩い所に動きますよね。そうすると徴税ができなくなります。でも、こちらに来ていろいろな所へ行ってくれば、お土産を買い、宿泊することで消費税を払います。OECD の消費税の平均は 18.5%ですからね。そして、様々な国から来てくれることで、いろいろな言語を話す機会が増えますよね。

岡本 | それはその通りですね。日本は観光資源が豊富な国ですからそれを活用しない法はない。

勝池 | 和食も世界文化遺産に登録され、ますます世界に広まるでしょう。それはかなり大きな経済効果ももたらすかもしれない。私はそれを「味(あじ)ノミクス」と読んでいます

岡本 | 「来～るジャパン」と「味ノミクス」が日本の成長源になる。

勝池 | カルビーの人が言っていました、今、世界の人口が 70 億人、その中で日本人の人口は 1 億人ですから、ざっくり言って日本人は世界の人口に対して 2%ですよ。2050 年になると世界は 90 億人位でしょ。それに対して日本は 9000 万人。つまり 1%。そう考えると 99%のマーケットは外にあるわけです。そういうことを感じ取った企業ほど案外、業績がいい。日本だけでは食べていけないですからね。

岡本 | これは江戸の末期に結局、開国、明治維新となったようなもので、企業も人もグローバル化は避けられないでしょう。しかし、当時の脱亜入欧のように何でもかんでも外国のまねをするのではなく、勝池さんが言うような「来～るジャパン」、「味ノミクス」という武器もあるわけですから、日本の文化に根差したグローバル化が必要なのでしょう。

勝池 | マカオに行ってびっくりしたのは、バブルがはじけて閑古鳥が鳴いているかと思っていたのですが、第 3 次計画、第 4 次計画と盛り上がっていました。マカオのギャンブル収入は 3 兆数千億円ですよ。33 のカジノしかないのに、ラスベガスをとっくに抜いてしまっている。と



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ころがある人いわく、中国の内部にはマカオのギャンブル収入の10倍位のスペースがあるということです。それも始まったばかりだと。2016年、上海にディズニーランドが出来ますよね。その前に浙江省にサンリオ・ピューロランドが出来ます。国民の平均貯蓄率は30数パーセントですよ。いつも、どこかがバブルになっているのですが、日本みたいに土地も、株も、絵画も、ゴルフ会員権もと、どこもかしこも上がるバブルではない。土地は上がっていますが、株は上がってないですよ。土地を買っている人は誰が買っているのかというと、日常的に額に汗して買っている人ではなくて、あぶく銭で買っている人なわけですよ。余ったお金で投資した人がやられる分には、社会の不安定要素にはならないのではないかと思います。

岡本 | 中国を見るとときにその多様性という側面を理解しないと大きな間違いを犯すことになるかも知れない。その点が物事を単純に決めつけ、その方向で一方通行になりやすい日本と大きく違う点ですからね。

勝池 | 香港に居た時に一番びっくりしたことは、返還があり、アジア通貨危機があり、サーズや同時多発テロ、サブプライム問題があり、ギリシャ危機がありました。その時、みんな鬼が出てくる、天井が落ちてくると言っていましたよね。チャンスが訪れるのは実はそこなんですよ。

岡本 | 日本に多くの人に来てもらうというのは日本にとっても非常に大事なことであり、出ていく方も、来る方もグローバル化の時代ですからいいことでしょう。政府間ではどうしても利害対立が単純な形で出てきやすいですが、民間の交流を通じて相互理解が進むのを期待したいと思います。今日はありがとうございました。